

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	Agency(主体性・自立性)教育の推進			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
昨年度は社会変動や新学習指導要領の施行に対応するために主体性を重視した教育推進に取り組んだ。 今年度も3つのコンピテンシー「主体的に学び続ける力」「他者と協働する力」「社会と関わる力」の更なる育成を目指す。	確かな学力の育成	学習指導要領や大学入試改革の動向等に対応した観点別評価の確立 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善と教授内容の高度化 (一人一台パソコン等ICTの利活用)		
	キャリア教育の充実	SDGsをテーマとする文理融合型探究活動の推進(産学官との連携強化) 進路実現に効果的なキャリア教育の推進 (中高連携、高大接続連携等学校外の教育力の活用)		
	豊かな人間性の育成	挨拶・服装・礼儀等、品格ある言動を身に付けさせる生徒指導の充実 特別活動を通じた主体性・協調性の向上とリーダーシップの育成(コロナ禍の脱却と発展) 多様性を認め合い、互いを尊重する人権教育・道徳教育の充実		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務	「指導と評価の一体化」の充実にに向けた授業改善と教授内容の高度化	観点別評価を教科内で共有することで充実を図るとともに、本校の評価スタイルを確立する。	A	令和4年度からの教育課程の完成年度となるため、観点別評価のさらなる充実を行いたい。具体的には、1・2学期の評価においてCとなった生徒への指導の充実を図り、「個別最適な学び」の実現に向けたICT教材の活用を目指していきたい。また、C評価を付けたことに対する教員の授業改善に向けても具体的な取組を促していきたい。 広報活動においては、多くの中学生に参加いただいた進路相談事業や、中学生体験入学、中学校における高校説明会など、多くの機会を積極的に活用し、地域・中学生・保護者の本校への理解と信頼を高めたい。
		PDCAサイクルの確立に向けて授業改善に取り組む雰囲気醸成する。	B	
		「主体的・対話的で深い学び」の実践により、思考力・判断力・表現力を育成する。	B	
	個別最適な学びの実現に向けたICTの利活用	ICTを活用することで、「指導の個別化」に向けた指導方法や教材を探る。	A	
		ICTを活用し、「学習の個性化」が図れるようスキルを身に付けさせ、主体的に取り組む態度を育成する。	B	
		「主体的・対話的で深い学び」の実践にむけてICTの活用方法を探究し共有する。	A	
中学校への広報活動の充実	様々な形で情報発信することで、地域・中学生・保護者からの信頼を高める。	A		
	進路相談事業事務局として、中学校との連携を図り、県立学校の魅力をアピールする。	A		
生徒指導	規範意識・人権意識・自己指導力の育成	生徒の規範意識・人権意識・自己指導力の育成に資する講演会を実施する。	A	
		学校行事における生徒会・各種委員会・部活動を機能的、主体的に活動させる。	A	
		生徒会定例会を実施し、生徒会から全校生徒に発信できる機会を作る。	A	
		挨拶・服装・礼儀等、品格ある言動の励行を継続的に指導する。	A	
教育相談体制の充実	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、訪問相談員、少年サポートセンター等との連携を図り、生徒相談・生徒支援の充実を図る。	A		
進路指導	進路探究力の醸成	教員対象の小論文研修を実施し、職員全体で小論文指導に協力する体制を作る。	A	
		オープンキャンパスや進路ガイダンス参加奨励により、学部学科研究を深めさせる。	A	
		大学入試改革や新学習指導要領に関する最新データを生徒・職員へ提供する。	B	
	キャリア教育の推進	高大等連携授業や校内進路ガイダンス、オープンキャンパスへの参加を奨励し、進路に対する生徒の基礎的汎用的能力を高める。	A	
		総合的な探究の時間を活用し、生徒に主体的かつ計画的に進路学習をさせる。	A	
		保護者会や進路説明会を通じて意識を高め、校外活動への積極的参加を促す。	A	
企画研修	分掌間の連携力向上	分掌再編成による業務の整理を行い、業務効率を高める。	A	
		式典実施に当たり各学年・校務分掌との十分な連携を図る。	A	
	教科指導力の向上	研究授業や授業アンケートを改善し、ICTを活用するための研修の充実を図る。	A	
		研究紀要原稿の依頼を早め、研究紀要の内容の充実を図る。	B	
図書教育の推進	図書館利用を促進する企画を実施し、図書委員会活動を充実させる。	A		
学年	主体性を育む「総合的な探究の時間」の構築	九工大や北九大との更なる連携を図り、生徒の探究活動の場を広げる。	A	
		西高サスティーン、西高ITチャレンジの活動を通して本校の長所を対外的に発信する。	A	
		生徒が課題を見出す機会としてエコタウンセンターや大学との企画を実施する。	B	
	学校行事とSDGs活動の推進	「総合的な探究の時間発表会」の充実や「SDGs企画」への積極的参加を促す。 企業や公的機関とのより強固な連携を図り、探究活動の更なる充実を図る。	B A	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・個別最適化の学びに対応できるようICTを活用していることや指導と評価の一体化を考慮して教育活動を行っていることは評価できる。今後、生徒・保護者の期待に応えるべく、時代に応じた教育課程の編成や指導方法の改善を一層進めてもらいたい。 ・先生方の力量を高める研修等を充実させ、生徒が小倉西高を選んでよかったと実感できる教育活動を行ってほしい。
A	・日頃から生徒一人ひとりを大切に生徒指導に取り組んでいることは学校行事等から感じ取ることができた。今後も、道徳教育を推進するとともに教育相談を充実させ、いじめを生まない学校づくりを進めてもらいたい。 ・様々な危険から身を守るよう、規範意識の育成とともに安全教育、防犯・防災教育にも力を注いでほしい。
A	・キャリア教育を充実させ、生徒の進路希望に対応できるよう、地域の外部機関(産学官)等とも連携したり、積極的に活用するなどして進路学習を進めてほしい。 ・生徒自身が視野を広げ、自ら考え、論理的に判断し、わかりやすく表現する力を育てる機会を増やしてほしい。
A	・教育現場には、より高度な知識や技術が求められている。企画研修部を設けて分掌間の連携を図り、研修を充実させることはとても有意義である。一層充実した研修ができるよう工夫してほしい。 ・ICT教育の実践に伴い、新たなチャレンジを行って欲しい。
A	・地域や大学・企業と連携しての探究学習は良い取組である。北九州市は国連大学から認定されたESD(持続発展教育)の拠点で海外と連携した様々な取組もある。今後、そのような取組に生徒が参加できれば一層よくなると思われる。 ・PTA、同窓会、地域と学校が連携する機会を積極的ににつけてもらいたい。
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・学校行事の見直しと精選等により、効率的かつ組織的に教育活動を行い、学校の組織力を高める。
- ・新学習指導要領に対応した教務規定の改定を行うとともに、規定に即した指導が行われるよう職員への共通理解を図る。
- ・大学入試改革に対応した計画的な進路学習や模試分析を行うとともに、生徒の希望進路実現に向けた進路意識の向上及び進路指導体制の再構築を図る。
- ・校内の各種委員会を整理・統合し、いじめ対策や教育相談体制を強化するとともに、道徳教育・特別支援教育をさらに推進する。
- ・探究活動をさらに充実させ、生徒の課題発見能力・課題解決能力を育てるとともに表現力・コミュニケーション能力などの資質・能力を高める取組を工夫する。